

令和7年度 貝毒プランクトン出現状況（6月18日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期7回目となる6月18日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*と*D. rotundata*が出現しました。

6月16日に採捕したイガイの下痢性貝毒検査の結果は0.02mgOA当量/kgで規制値を超えませんでした。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/9	5 m	10.1	98	0		
		10m	10.3	27	21		
		20m	10.4	0	0		
②	4/18	5 m	11.0	324	9		
		10m	10.9	330	12		
		20m	10.7	294	9		
③	5/1	5 m	12.1	510	24		
		10m	11.6	234	33		
		20m	11.2	351	15		
④	5/14	5 m	13.0	144	9		
		10m	13.0	162	6		
		20m	12.6	108	6		
⑤	5/28	5 m	15.3	30	3		
		10m	14.3	28	4		
		20m	13.2	35	0		
⑥	6/9	5 m	16.8	0	0		
		10m	16.1	11	0		
		20m	15.2	7	0		
⑦	6/18	5 m	19.2	0	0	6/16	0.02
		10m	17.9	0	3		
		20m	16.5	0	0		
⑧		5 m					
		10m					
		20m					
⑨		5 m					
		10m					
		20m					
⑩		5 m					
		10m					
		20m					
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

* 貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。